

かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>



平成二十六年
度終航式

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する
け・・・継続する こ・・・行動する

今年度全94航海が終了しました

【所長 新庄 正幸】



2月24日の第94回航海（大津市立堅田小学校・仰木の里小学校）で、終航式を行わせていただきました。大きな事故なくこの日を迎えられましたことに感無量です。

思い起こせば、今年度「湖の子」出航式直前の4月18日に、韓国の旅客船「セウォル号」が沈没する事故が起きました。事故原因について、その後さまざまな報道がありましたが、乗船者の安全が確保されてこそその航海です。

フローティングスクールにおきましても、子どもの生命を守りはぐくむことは本事業の最優先課題であります。通常の学校では得られない様々な特長がありますが、一方で、学校とは異なる多様な危機に直面する場合も想定しています。

日常生活とは異なり琵琶湖を舞台に船を利用した教育事業である。

船で泊を伴い寝食を共にする事業である。

船内活動、寄港地活動ともに絶えず危機を伴う事業である。

海洋活動・カッター活動等、湖上・湖岸での活動を実施する事業である。

さらに、他の職種との協働で成り立ってまいります。すべての安全管理や確認に困難を要しますし、関係機関・団体との連携や協力を常に求めさせていただいています。乗船校の皆様にとりましても、同一航海に複数乗船するので、各校の教職員の連携・協力がないと事業成果を上げていただけられないでしょうし、特に安全管理の徹底に努めていただいているところです。

改めまして、皆様には、安全航海にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

「うみのこ」は、この3月にドック入りし、エンジンの法定点検をはじめ、諸機関の作動状況等さまざまな検査や救命いかだや救命胴衣等の確認を予定しています。来年度の航海に向けて万全を期します。

かきくけコーナー

子どもの声に随分元気と勇気を頂戴した1年間でした。ここに、一部を紹介します。

○人と仲よくするという事は一つの幸せが生まれることに気づき、まさに希望の、いや幸せを運ぶ船だ。

○OFSで学んだことを生かした大人のように、10年後もぼくたちも学んだことを生かしていきたい。

○OFSを終えて「これからもしてみよう」と思ったのがいっぱい増えたことに気づいた。

○本当に「まほうの船」のように1日目で仲よくなった。自分を変えられる船だった。

○滋賀県がびわ湖をあずかっている。「ほんとうにそうやなあ〜。」滋賀県に生まれてきてよかった。

平成26年度「湖の子」終航式によせて

第94回児童学習航海、堅田小学校、仰木の里小学校の、この航海を最後に平成26度のびわ湖フローティングスクールが終わろうとしています。この終航式は、みなさんにとっての2日間の「船の学校」の卒業式でもありませんし、今年度フローティングスクールに参加した人たち14,054名の終わりの会でもあります。みなさんは、滋賀県の5年生の代表としてこの終航式に参加しているのです。このフローティングスクールを卒業した卒業生は、昭和58年の就航以来、皆さんを加えて、498,894名となりました。この数は滋賀県の人口の約三分の一。約3人に1人はフローティングスクールの卒業生だということになります。皆さんも今日からその卒業生の仲間入りです。

私も今年度いろんな学校の航海を見せていただきました。みなさんを含めどの航海にも言えることですが、この卒業式のときには、みんなとてもよい顔をしています。3つの教科書（①船の生活から、②友だちから、そして③琵琶湖）から、たくさんのことを学んでくれたのではないのでしょうか。

船の生活は学校と違って、みなさんの安全を守るためのルールがありました。学校とは違って不便なこともあったでしょう。しかしそうしたことから学んだこと、考えたことが今後の生活にもきっと生かされると思います。3つのあ（安全、挨拶、後始末）は、是非学校生活に活かしてほしいですし、加えてあと2つのあ（あかんことはあかんのあと、ありがとうのあ）を付け加えてほしいのです。いやでもしなあかんことはあかんし、したくてもしたらあかんことはしたらあかんです。そして、今回の航海が実現するために、感謝しなければならない方がいっぱいおられるはずですよ。

また、2日間友だちと寝食を共にする中でたくさんの仲間の優しさや思いやりに触れることができたと思います。今まで気づくことのなかった友だちの素晴らしい面に気づけたのではないのでしょうか。「自分への気づき」もあったはずですよ。そして、何より琵琶湖の湖上で生活することで、いつも身近にありすぎてあまり考えなかったこの琵琶湖が、私たちにとってとても大切な存在だということに気づけたのではないのでしょうか。琵琶湖の島々を展望して、初めて知ったことやもっと調べたいなあと感じた人もいたでしょう。琵琶湖のプランクトンをたくさん見ることができておもしろかったという人もいたでしょう。いろんな場所で取った琵琶湖の水を比べてみて、よく見えるなあと思った人や、にごっているなあと感じた人もいたでしょう。

この学習船「うみのこ」に乗船した人たちは、琵琶湖に何かを感じたはずですよ。心を動かされたはずですよ。今年度は、このような航海を心が動くかきく航海（考える、気づく、工夫する、継続する、行動する）と名付け、滋賀県の5年生全員に求めさせていただきました。

「うみのこ」に乗る前に持った疑問を解決するために、船に乗ってくる。この二日間で気づいたことや考えたこと、工夫したことがいっぱいあったでしょう。そのことを誰かに伝えたい、そして、続きがしたい！もっと調べたい！と思ってほしいのです。「気づいた」ことがあれば、動き出してほしいのです。そして、一回きりではなく、続けることに、本当の値打ちが出てくると思います。現在498,894人のフローティングスクールの卒業生がそのことを実践すれば、この琵琶湖はもっともっと素晴らしい湖になっていくと思います。

先生方に一言お礼申し上げます。先生方のきめ細かな御指導、御配意により児童学習航海を有意義に終えることができました。航海自体は2日間、時間にして約30時間なのですが、この日に至るまでには、準備、計画、事前指導、児童の健康管理と多大な時間を割いて御尽力いただいたことと思います。1年間を振り返ってみますと、航海の延期や航路の変更等、学校に急な対応をしていただかなくてはならないこともございました。しかし94回の航海のどれをとってみても、本事業に対する御理解をいただき、また惜しみなく御協力くださったおかげで、予定しておりました全ての航海が実施できたこと本当に嬉しく思っております。ありがとうございました。

最後となりましたが、琵琶湖独特の気象状況に気を遣いながら、安全な航海に努めていただきました船長、船員のみなさん、ありがとうございました。子どもたちに愛情いっぱいの食事を提供していただきました食堂スタッフのみなさん、ありがとうございました。それでは、児童のみなさん、明日からの学校生活、さらに6年生に向けて、ますます活躍されることを期待しています。1年間、様々な方々の御理解と御尽力のおかげで、こうして終航式を迎えられましたことに感謝の意を申し上げますとともに、来年度も安全に航海できることを祈念いたしまして私の話を終わります。